編集後記·Editorials

魚類学雑誌 58(1): 126 2011年4月25日発行

無類学雑誌58巻1号をお届けします。今号は本論文6本、短報4本、シリーズのほか、4本もの書評をはじめとする数多くの記事が掲載され、特大号となりました。出版予算のことを気にせずにはいられない状況ではありますが、それ以上に多くの投稿・掲載論文があるということは、編集にたずさわるものとしてはうれしいことです。

さて、今号の会員通信には「Ichthyological Research-現状と 論文投稿へのお誘い」と題した記事があります。この記事には Ichthyological Research (IR) が現在抱えている諸問題について、 広く会員のみなさまに知っていただこうということが意図されていますが、それ以外にIRの編集過程やピアレビュー制についても丁寧に説明されています。我々編集委員をはじめ、原稿が 出版されるまでに携わる多くの査読者の方たちは、まさに「互 恵精神」と「専門分野への貢献に対する誇りと責任」の下、その任にあたっています。

和文誌である本誌では、インパクトファクターという呪縛からはある意味開放されており、真の意味での学会誌、即ち会員相互の情報交換の場としての機能が大きいと思います。しかし、編集過程やピアレビュー制については、電子投稿管理システムを用いていないこと以外、IRとほぼ同様の過程を経ています。魚類学への貢献と会員相互の情報交換の場として本誌を発展させて行く上で、多くの方々の互惠的な助力による掲載論文・記事の質の維持は欠かせません。今後ともご理解とご協力をお願いします。

この編集後記の原稿を印刷社に入稿した日の午後、あの大きな地震が関東・東北地方を襲いました。被災した会員の皆さまには心からお見舞い申し上げます。 (古屋康則)